



「和と自然」をテーマにしたC1病棟デイルーム
～壁面に書と琉球畳み・和紙を用いたベンチをディスプレイしました～

お待たせしました。新病棟(C館)見参

平成14年5月の地鎮祭より1年余、共和病院増築・改修工事(第1期)に取り組んで参りましたが、ついに平成15年8月末、待ちに待った新病棟(C館：以降C館)が完成いたしました。

平成元年、国の施策であるゴールドプラン以降、平成7年新ゴールドプランを経て、平成12年にゴールドプラン21が発表され医療も変革の時期を迎えています。そんな中、当院でもこの施策を目標に21世紀に生き残る医療機関となるため『21世紀プロジェクト』を立ち上げ、病院機能の見直し、機能別病棟への再構築、より良い療養環境の提供など検討して参りました。

今回の第1期工事はこの先駆けとなるべく、『和と自然』をテーマに、清潔感に溢れてはいても何か無機質な感じのする病棟ではなく、患者様のためのお一人8㎡の療養スペース・廊下幅3m・ゆとりのあるデイルームなどの癒しの空間、ご高齢者の方が長い人生の中でどこかで出会ったことのあるような、どこか懐かしい記憶に刷り込まれている色調や素材感を大切に安らぎの空間、バリアフリーによる安心の空間、各フロアやエレベーターホールには日本古来からある幾何学模様や伝統色・テーマカラーを用いたトータルなカラーコーディネートの中にも差別化を図り、今自分ごとのフロアにいるのかを分かり易く表現しています。また各フロアは患者様の特性に合わせた機能分化と設備を配置し、安全対策にも心がけ、安心と安全の面でもサポートいたします。

閉鎖病棟のナースステーションのオープンカウンター化や自動販売機コーナー・洗濯コーナーの設置、可動式畳コーナーの設置、屋外リハビリスペース、また従来のベッドサイドのカーテン・家具の機能や形状を見直し複

数床の病室には空間の確保とプライバシーへの配慮・採光などを考慮・検討し間仕切り収納家具を導入、病室廊下はカーペットを使用するなど新しい療養環境実現のための試みもしています。1Fは43床の老人性痴呆疾患治療病棟、患者様の特性や療養生活にあわせたキッチンコーナーが特徴です。2Fは48床の介護療養病棟(介護保険適応)で要介護度の高い患者様が多いため寝たままでも入浴ができる浴槽と車いすにて入浴ができる浴槽を設置した特浴室が特徴です。3Fは44床の精神科急性期治療病棟で、アメニティー・プライバシー・安全確保に配慮し、ハードな入院からソフトな入院まで病状にあわせた設備を備え、自販機やご自身で洗濯のできるランドリーも設置しています。4Fは総合リハビリセンターの機能を持たせたフロアで、作業療法センター・リハビリテーションセンター・多目的ホールを配備、調理室や和室、バトミントンコート1面が確保できるスペースを有した多目的ホールの施設を設置。またこのホールには200インチの大画面のミニシアター・AV設備、フローティングステージを有し、患者様のリクレーションや鑑賞会、職員の勉強会などに活躍します。5Fは洗濯室・機械室という構成よりなっております。また今回、老朽化の激しかった厨房の新設、職員食堂の移転も実施し、保温保冷車を全フロア分配備、患者様への適時適度な食事の提供をより一層推進し、9月より運用を開始しております。

現在はB館にて第2期工事を進められており、来年春には精神科慢性期病棟(解放・閉鎖病棟各1フロア)とストレスケア病棟(仮称：現在詳細を検討中)の整備が完了し、今まで以上により一層良い病院へと生まれ変わります。

竣工式・内覧会

平成15年8月10日、前日の台風10号の風雨とは違って変わった晴天に恵まれ、共和会共和病院のC館建設に伴う竣工式・内覧会を迎えることが出来ました。

竣工式に先立ち、C館の安全を祈願し神事が執り行われました。

式典に於いては「今回竣工を迎えることになりましたC館は、共和会共和病院での21世紀プロジェクトとして平成11年の国の施策『ゴールドプラン21』が出され、その政策に目標を定めこれまで進めて参りました。その中でもとりわけ精神医療が非常に変わって行くと思われま。今回、竣工式に於きまして、このC館建設に伴い、皆さま力を合わせて頂戴いただきましたことに心よりお礼を申し上げます。このC館が、精神障害者の方々、ご高齢者の痴呆の方々またその枠を越えたご高齢の方々の病棟としてこれから育てていきたいと思っています。我々一同これから始まりです。職員一同力を合わせて充実させていきたいと考えております。」と理事長の挨拶に続き、設計監理を担当された株式会社山下設計中部支社様、建築を担当された株式会社大林組名古屋支店様、また日頃の共和会の活動にご理解を示され今回の新病棟建設にあたり多額のご寄付を頂いた横山良一様に感

謝状の贈呈をさせて頂きました。横山様は病院入口に設置させて頂いたオブジェのソーラー時計、C1・C2・C3病棟デイルーム及び職員食堂のテーブル及び椅子一式をご寄付されました。大切に未永く使わせて頂きたいと思ひます。

山下設計様、大林組様から謝辞を頂き、その中で「施工する上で大変な難工事ではありましたが、真心を込めて建築にあたらせていただきました。これからは真心を込めた建物に皆さんで魂を入れていただき



たい」と激励を頂きました。

「C館を作ってくださいました山下設計様、大林組様、ここには出席していただいただけませんが、一年余に渡って暑い日も寒い日も遅くまで働いてくださった職人さん、スタッフの皆さん心よりお礼申し上げます。1985年カンザス州のメンンガークリニックに行つて参りました。そこでメンンガー博士は「心の病は愛と環境で治す」と

おっしゃっていました。しかしまだまだ日本はそのような環境を整備することも出来ず、精神科の医療費も安価で難しいのかなと思つていましたが、この度この様な病棟を設計・建築していただきまして心から感謝しております。尽きましては、私達がこれから患者さまを診るにあたっては、愛はもとより技術的な面で研鑽いたしまして良質な医療を提供できるよう今日お誓ひ申し上げます。」と院長榎本和のお礼と誓ひの言葉で式典は幕を閉じました。

また当日は、医療関係者の方々をはじめ、行政関係者、関連企業や近隣の方々など2百数十名の方々が内覧会にお越し頂き、各施設の見学や各フロアで説明を熱心に聞かれました。



共和病院地域医療フォーラム

平成15年9月20日、共和病院C館多目的ホールにて「第6回共和病院地域医療フォーラム」が開催されました。今回は昨年同様、院内の発表を関係各所の方々にも知っていただく機会として、また時期になつたテーマへの取り組みをする試みとして、名称もシンポジウムからフォーラムへと装いを変えての開催となりました。また、今回の各テーマは21世紀プロジェクトによる機能別病棟の推進とC館建設とも時期が一致し、職員が関心を持つ課題を中心にした発表になりました。

PSWの水谷課長の開会の辞に続き、院長の挨拶でフォーラムの幕が開きました。その挨拶の中で「共和病院には精神科慢性期病棟（閉鎖病棟・解放病棟）、精神科急性期治療病棟、老人性痴呆疾患治療病棟、介護療養病棟（医療保険適応・介護保険適応）、ストレスケア病棟（仮称：現在詳細を検討中）という6つの機能別病棟を構築し、お一人の患者様に対して約8㎡のゆったりとした治療・療養環境を提供していきます。また近々医療連携室を設置し、病棟連携・病診連携を推進し円滑な入退院につなげていきたいと思ひます。平成17年には福祉ホームBの開設を予定しており、急性期治療病棟、慢性期病棟、療養病棟からの患者様の動きを作っていくと考えています。家に帰れない方々には福祉ホームBやグループホームへの入所案内、就労できる方へは就労支援、その前段階の方にはデイケア・デイナイトケア或いは憩の郷の利用・連携を考え、また訪問看護ステーションソレイユや居宅介護支援事業所菜の花との連携の元で、地域での自立生活が容易になるようネットワークを作っていきます。質のよい医療・看護を提供して患者様ひとり一人の尊厳を大切にし、21世紀に生き残れる共和病院にしていきたい。」と、これらの共和病院の概要説明や共和会の関連施設との連携、抱負が語られました。

最初はA2・A4・C2病棟による「療養病棟の機能と今後の課題」と題し発表がありました。その中で事例を用いた排泄介助の実際やスタッフ自らがオムツ体験・

寝たきり体験をし、そこから浮かび上がった介助される側に立った経験談から、癒される療養環境の提供・患者様の立場に立った自立支援・人としての尊厳の重視を目指していくと云う発表がされました。

続いて、C3病棟による「急性期治療病棟C3の展望」と題し、田中医師から発表がありました。C館建設に伴い今回新たに取り組む病棟機能を写真を中心にハード面の機能や入院～治療～退院に至る流れ、そこに求められるニーズやコンセプト（ソフト面の機能）が分かり易く紹介されました。

後半は理事長による「老人性痴呆疾患治療病棟（C1病棟）の仕事」と題し、病棟機能分化への取り組みを歴史的背景やゴールドプラン21等の施策を交え、共和病院が進もうとしている方向性の報告があり、その中でコンセプトとして、「問題行動の多い痴呆患者様に投薬を行い、精神的な安定を回り、介護者の負担を軽減する」入院期間は90日を目標にし退院を勧め、在宅療養を考える「精神科・内科の区別をなくし、関係スタッフが一致協力して痴呆患者様に最適な医療・看護を考える」と発表がされました。

最後は「精神科慢性期病棟のこれから」と題し、診療部・看護部・PSWそれぞれの立場からの発表がされました。病棟の性格上様々な病態の患者様が混在している中、生活史・家族背景・疾患と病理の関係・経済的背景等を考慮しつつ個別性に基づく安定した看護・医療・ソーシャルワークの提供、様々なケースに対応した取り組みをしていくこと、そして先ず私たちが最初に行うことは、患者様の安全保障感をスタッフが脅かさないこと、できれば患者様から治療者として信頼されることが病棟で徹底されており、その上で満足の提供が身のあるサーピスつながるのだと発表がされました。

当日は100数十名の方々が参加され、フロアからも活発な質問や意見交換がなされました。



「こころの日」

7月1日

日本精神科看護技術協会愛知県支部 編集部長
「こころの日」担当 松本 佳宣

私は、幽霊は信じません。が、暗闇の中では心臓はドキドキし、鳥肌も立ち恐怖を感じる事があります。なぜ怖いのでしょうか。それは、暗闇に何があるか、何が起こるかが予想できないからです。心の病に対しての偏見や恐れも、これと同様なのではないでしょうか。「知らない」「見たことがない」「分からない」。多くの人、心の病があることは理解しているものの、それを病んだ方達と接する機会は少ないと思います。

今年で2回目となる「こころの日」。日本精神科看護技術協会では、昭和63年7月1日の精神保健法施行の日にちなみ、7月1日を「こころの日」としました。精神科看護師の団体として広く市民の方々に精神障害について理解を深めてもらい、精神保健の向上を図りたいと企画しています。今年は、講演会講師として、社会福祉法人憩いの郷ワーキングスペースおおぶ施設長宮沢和志先生をお迎えして、「病院から地域に出て感じたこと」～社会復帰施設の問題点～と題してご講演をしていただきました。引き続いて行われた映画「ビューティフルマインド」は、ノーベル賞を受賞した天才数学者 ジョン・ナッシュの苦悩の人生を描いた作品でした。天才数学者と呼ばれていたナッシュは、その才ゆえに精神を病んでしまいます。「私には数学しかない」とつぶやくナッシュと、いつも見守ってきた妻アリシアとの物語に、多くの参加者の涙を誘っていました。

活字離れと言われる現在、書籍やパンフレットより講演会で直接生の声を聴いて感じていただきたい。「こころ」を題材とした映画を鑑賞してもらい、こころについて考えていただきたい。多くの人に心のリフレッシュをしてもらいたい。暗闇の中で人々に安らぎと安心を与えるちょっとした明かりのような、そんな「こころの日」を7月1日の恒例行事として定着させたいと考えています。

今後、毎年講演会&映画会を開催していきますので、皆様お誘い合わせの上是非ご参加ください。

優しい医療、 楽しい職場

かつては、多くの医療機関が転倒、転落防止の為に、患者様に車椅子ベルトで縛ったり、ベッドを4本柵で囲っていました。共和病院でもそうでした。しかし、平成11年から当院では、ご老人の身体拘束廃止に力を注いで参りました。私達が、身体拘束廃止に取り組んで感じたのは、「私達の取り組みで、患者様のQOL(生活の質)が大きく変化し、それが、次の看護への原動力になった」という事です。当然良い事ばかりではありません。教訓になる失敗例もありました。

今回そんな取りくみを御家族の了解のもと、1冊の本にまとめて出版しました。よろしければ手にして頂き、患者様の変化、看護師達の取りくみをお読みいただければと思います。



優しい医療、楽しい職場

—身体拘束ゼロをめざして—
共和病院発行(定価1000円税込み)

●販売：当院総務課

TEL 0562(46)2222

●本の内容についてのお問い合わせ：看護部 松下

TEL0562(46)2222 内線<330>

編集後記



火星が大接近しているというので、納戸の奥で埃をかぶっていた天体望遠鏡を引っ張り出して驚きました。レンズに埃が付着しすぎて、磨いても垢があきません。すぐに諦めました。ふと気が付くと納戸に堆く積まれたガラクタの山、今では使用しなくなったパソコンが3台も眠っています。10月より「改正リサイクル法」により家庭用パソコンも指定再資源

化製品として処理しなければならなくなりました。ついつい捨てきれずに何時しか15年間、思い出の品として取って於いたものに処理費用を負担しなければいけなくなってしまったのです。「捨てる」から「再資源化」へ向けて大きな一歩なのでしょうが少し複雑です。嗚呼～！これでまたお小遣いが……。

睡眠障害について

前は睡眠について述べました。今回は睡眠の異常、そのなかでも特に不眠症について少しだけ述べます。

不眠は大きく次のようなタイプに分けられます。

- ①入眠困難：床についてもなかなか眠りにつけないタイプ
- ②中途覚醒：夜中に何度も目が覚め、その後眠れないタイプ
- ③早期覚醒：明け方近くに早く目が覚めてしまい、それから眠れないタイプ
- ④熟眠障害：眠りが浅くて、睡眠時間のわりに熟睡した感じがしないタイプ

①～④のいずれかを誰もが経験したことがあると思いますが、だいたいの場合、イベントなどを前にした興奮や、商談や試験といった不安や緊張が背景にあることが多く、その場合、それさえ過ぎればぐっすり眠れることが多いと思います。このようないわゆる「一過性不眠」は心配する必要はありません。問題なのは、不眠の状態がだんだん悪化していき、長期間続くことで心身ともにダメージを受けてしまうことです。不眠症の背景にうつ病や神経症といったところの病気が隠れていることもあり、このような場合は専門医の相談が必要かと思えます。

不眠の背景に病気がある場合は医師の適切な治療とケアを受けることが必要ですが、一般に不眠はさまざまな、また些細な要因で起こるものです。自分の睡眠を妨げるものが何なのかを考え、できるものから改善していくとよいでしょう。

*

睡眠障害の診断・治療ガイドラインでは、12項目にわけて睡眠を改善するコツを以下のように要領よくまとめています。

- 1) 睡眠時間は人それぞれ、日中の眠気で困らなければ十分
- 2) 刺激物を避け、眠る前には自分なりのリラックス法
- 3) 眠たくなってから床に就く、就寝時刻にこだわりすぎない
- 4) 同じ時刻に毎日起床
- 5) 光の利用でよい睡眠
- 6) 規則正しい3度の食事、規則的な運動習慣
- 7) 昼寝をするなら、午後3時前の20～30分以内
- 8) 眠りが浅いときには、むしろ積極的に遅寝・早起き
- 9) 睡眠中の激しいイビキ・呼吸停止や足のびくつき・むずむず感は要注意
- 10) 十分眠っても日中の眠気が強い場合は専門医に
- 11) 睡眠薬代わりの寝酒は不眠のもと
- 12) 睡眠薬は医師の指示で正しく使えば安全

いずれも実際の生活でとうてい実行不可能なものはありません。いちど試されてみてはいかがでしょうか。

睡眠にこだわるあまりに、「眠らなきゃ」というプレッシャーで不眠症に陥ることもしばしば経験します。「眠れなくてもいいや」と開き直ると意外に眠れるものです。“こころ”と“からだ”を「眠れない」というプレッシャーから開放してみましよう。おのずと心地よい眠りへと導かれていくでしょう。

なお、睡眠に関するホームページ「快眠推進倶楽部」URL <http://www.kaimin.info> というものもあります。このホームページは、睡眠に関する専門の医師により組織された快眠推進委員会の公式サイトです。ご興味のある方は一度参考にされてはどうでしょう。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

- 私たちが目指す『優しい医療』とは!
- 患者様に安心と満足を提供する医療
 - 良質且つ効率的な医療の提供
 - 患者様へのサービスの充実
- 私たちが目指す『楽しい職場』とは!
- 毎日の出勤が楽しくなる職場
 - 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
 - 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしは、利用者の皆様へより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆様と医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。

これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報保護されます。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**
愛知県大府市梶田町2-123
TEL.0562-46-2222(代)
URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名譽院長
加藤邦之助

**病妻の
圍に灯ともし
暮るる秋 漱石**

鏡子夫人は漱石と年齢十才も離れていて性格も正反對、明治二十九年六月見合結婚、三十年七月流産からヒステリーとなり三十一年六月に近くの川に身を投げようとした。九月には悪阻が重くなってヒステリー症状がひどくなったりして、一見悪妻の様に思われていました。一方漱石も結婚前より神経衰弱の様になり、明治二十七年鎌倉で参禅したり、ロンドン留学中には日本人留学生の間で「夏目発狂せり」と噂されたり、子供達からも三年周期で神経衰弱状態が出現すると云われたりしました。今回の句は悪阻で病臥していた頃の句で、日暮れの早い宵寝している傍のスタンドの灯のほのぼのと柔らかい光りを当ててやさしく妻をいたわっている心が良く出ています。

他にも鏡子さんを想う句として「吾妹子を夢みる春の夜となりぬ」(留学中の作「耳の穴掘って貰いぬ 春の風」があります。甘い甘い句ですね。

C館 誌上レビュー

C1病棟(老人性痴呆疾患治療病棟)

1F



C館ポーチ
C館の玄関、開放的な空間を演出しています



1階エレベーターホール
洋の中に和をあしらった空間を提供します



病棟ナースステーション
オープンカウンターと車椅子対応の高さにしました



ダイニングルーム
約143m²のスペースを提供します



病棟廊下
廊下幅3m、回廊式を取り入れゆとりある空間になりました



キッチンコーナー
患者さまへの飲み物やおやつを提供致します

C2病棟(介護療養病棟)

2F



2階エレベーターホール
階層を現すオブジェと共に落ち着いた雰囲気になっています



ダイニングルーム
約178m²のスペースを提供します



特浴室
仰臥位入浴のドーム式シャワーと座位浴槽を設置しました



個室
酸素・吸引、洗面・WC付きの個室で、4室用意しました



2床室
酸素・吸引設備のある二人部屋です



4床室
家具とカーテンによりプライベートな空間を提供します

C3病棟(精神科急性期治療病棟)

3F



3階エレベーターホール

階層を現すオブジェと共に落ち着いた雰囲気になっています



ナースステーション

開放的なオープンカウンターにしました



デイルーム

約170㎡で、畳コーナー、ロッカー式冷蔵庫などを設置しています



4床室

家具とカーテンによりプライベートな空間を提供します



浴室

ゆったりしたスペースと6機のシャワーを設置しています



ランドリーコーナー

オープンスペースに乾燥室や乾燥機も設置しています

作業療法センター・リハビリセンター・多目的ホール

4F



リハビリテーションセンター

多目的WC、ST室も設置しています



屋外リハビリスペース

床面はゴムチップ舗装、外周は屋上庭園を兼ねています



作業療法センター 手工芸室

約72㎡のゆったりしたスペースを提供します



作業療法センター 調理室

コンロ、オープンを備えた調理台を設置しています



作業療法センター 和室

床の間や流しを有した17.5畳の和室



多目的ホール

ミニシアター等のAV設備と約280㎡の広い空間を提供します